

ECO2015 年
環境活動レポート

平成 27 年 12 月作成

活動期間：平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日

Creative Communication

OGAS

Crossmedia Solutions



才才せき写真印刷株式会社

目次

環境方針.....	1
<基本方針>.....	1
1. 事業活動への概要.....	2
2. 環境目標.....	3
3. 環境目標とその実績.....	5
1) 二酸化炭素排出量.....	5
2) 廃棄物排出量.....	5
3) 水道水使用量.....	5
4. 環境への取り組み状況.....	6
5. 主な環境活動計画の内容.....	7
1) 二酸化炭素の削減.....	7
2) 廃棄物の削減.....	7
3) 紙使用量（コピー紙等）の削減と有効利用.....	7
4) 水使用量の削減.....	8
5) 総物質投入量グリーン購入の推進.....	8
6) 化学物質の削減.....	8
7) その他.....	8
6. 主な環境活動計画の内容と評価.....	9
7. 次年度の取り組み内容.....	11
8. まとめ.....	12
9. 環境関連法規への違反、訴訟の有無.....	12
10. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	13

環 境 方 針

当社は、現在の環境汚染とCO₂排出による地球温暖化が加速していることを憂慮し、事業活動による環境への影響を的確にとらえ、環境への優しさを優先します。

その為に、環境目標を定め達成に向けた改善活動計画の定期的な確認と評価を行い、環境経営システムの維持、継続的改善に努めます。

また、環境関連法を遵守し、地球温暖化防止の為にCO₂削減・省エネを推進し環境方針を全社員に周知するとともに、地球への環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

<基本方針>

1. 電力使用量を削減します
2. ガソリン使用量を削減します
3. 水の使用量を削減します
4. 廃棄物排出量を削減し、リサイクルに努めます
5. グリーン購入を推進します
6. 化学物質を適正に管理し、使用量を削減します
7. 印刷物の生産過程で環境に配慮します
8. 周辺の清掃活動をし、社会活動に貢献します
9. 環境活動は継続的に見直し、改善していきます
10. 環境に関する法規を遵守し、環境保全・予防に努めます

制定：2009年12月1日

改定：2013年12月1日

オオゼキ写真印刷株式会社

代表取締役

大関 邦夫

1. 事業活動への概要

- 会社名および代表者名 オオゼキ写真印刷株式会社
代表取締役 大関邦夫
- 所在地 本社工場 静岡県浜松市中区葵西2丁目5-20
- 環境保全関係の責任者および連絡先
責任者 印刷技術 課長 中井智史
連絡先 TEL 053-436-1956 FAX 053-437-6095 E-mail insatsu@ozekipp.com
- 事業の内容 一般企業及び観光関連の販促物の企画・制作・印刷
- 規模 敷地 本社工場 1,611㎡ 建坪 鉄筋コンクリート3階建て 延べ1,555㎡
- 従業員 46名
- 事業規模

項目	単位	平成25年	平成26年	平成27年
生産高	百万円	482	482	450
従業員数	人	56	56	46

- 沿革
 - 昭和 36年10月 現代表者、大関邦夫が商業フォトを主要業務としてオオゼキフォトサービスを創設
 - 昭和 38年12月 印刷工場を浜松市葵町152（現本社）に設置、外注印刷をすべて自社印刷に切り替え
 - 昭和 42年 3月 法人に改組 資本金100万円にて、オオゼキ写真印刷株式会社設立
 - 昭和 49年 6月 資本金3,000万円に増資。
 - 昭和 60年 8月 新社屋竣工
 - 平成 6年10月 マッキントッシュ&ゼロックスカラーコピーデザイナーズシステム導入
 - 平成 17年 7月 CTP出力機、ニューダイヤ菊全高速フルデジタル自動4色機導入
 - 平成 23年 9月 コニカミノルタオンデマンド印刷機導入
- 対象範囲
本社の全組織・全活動・全従業員が認証登録の対象

2. 環境目標

2-1 環境目標

環境負荷低減のための目標

過去3年間の環境への負荷の状況をチェックし、H27年度は温室効果ガス排出量、水資源使用量、廃棄物総排出量の削減に取り組むことにした。さらに昨今の社会的要請による環境保全の取り組みとして、環境経営システムに係わる項目についても積極的に取り組むことにした。環境負荷と環境への取り組み結果を踏まえて定めた環境負荷低減のための目標は次のとおりである。

環境負荷低減目標（目標は前年度実績に対する値）

	単位	H28年	H29年	H30年
温室効果ガス排出量	売上高当り K g CO ₂ /百万円	1%削減	1%削減	1%削減
廃棄物等総排出量	売上高当り t/百万円	1%削減	1%削減	1%削減
水資源使用量	売上高当り m ³ /百万円	1%削減	1%削減	1%削減

2-2 環境負荷実績

コア指標 過去3年間(H. 25, 26, 27年)の実績

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成27年度対前年比
温室効果ガス排出量	(kg CO ₂)	166,165.4	152,537.0	140,185.2	5.3% 増加
	売上高当(t/百万円)	348.4	319.9	336.7	
電力CO ₂ 排出量	(kg CO ₂)	121,582.4	108,781.6	102,788.3	8.2% 増加
	売上高当(t/百万円)	254.9	228.1	246.9	
化石燃料CO ₂ 排出量	(kg CO ₂)	39,178.4	40,328.1	32,918.0	6.5% 減少
	売上高当(t/百万円)	82.1	84.6	79.1	
廃棄物CO ₂ 排出量	(kg CO ₂)	5,404.7	3,427.3	4,478.8	49.7% 増加
	売上高当(t/百万円)	11.3	7.2	10.8	
廃棄物排出量	(t)	58.4	49.8	49.2	13.2% 増加
	売上高当(t/百万円)	0.122	0.104	0.118	
循環資源量	(t)	49.2	42.9	42.2	12.6% 増加
	売上高当(t/百万円)	0.103	0.090	0.101	
中間処分量	(t)	9.24	6.85	7.02	17.3% 増加
	売上高当(t/百万円)	0.019	0.014	0.017	
最終処分	(t)	0.00	0.00	0.00	0% —

	売上高当(t/百万円)	0.000	0.000	0.000	
水道使用量	(t)	621	636	575	3.6% 増加
	売上高当(t/百万円)	1.302	1.334	1.381	

	単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
売上高	百万円	477	477	455

3. 環境目標とその実績

項目	単位	基準年 実績 (絶対値)	平成 26 年度 売上高 (/百万円)	運用期間 削減目標 (%)	平成 27 年度 目標値 (/百万円)	(12 月 実績 (絶対値)	～ 実績 (/百万円)	11 月) 目標比	評価
温室効果ガス排出量	KgCO2	152,537	319.866	-1%	316.667	140,185	336.717	106.33%	×
廃棄物排出量	t	49.76	0.104	-1%	0.103	49.17	0.118	114.35%	×
水道水使用量	t	636	1.334	-1%	1.320	575	1.381	104.60%	×

1) 二酸化炭素排出量

○ 電力 CO₂

使用電力は稼働時間が少なくなったこともあり、削減することができました。また、日ごろの節電の効果が表れています。売上高の減少により評価は×です。

二酸化炭素排出量を把握する際に用いた購入電力の**排出係数は平成 22 年度中部電力の排出係数 0.474 を用いました。**

○ 化石燃料 CO₂

ガソリンの使用量は累計で削減することができました。軽油はカメラマンの遠隔地への出張が多かったため、増加となりました。数値管理を徹底し走行の無駄やムラを減らします。

○ 廃棄物 CO₂

印刷物の絶対量が減少し、廃プラ・廃油の排出量が減少しました。

2) 廃棄物排出量

廃棄物総排出量は減少することができました。紙類の排出量の減少が大きく影響しています。継続して印刷時に発生した白紙のメモ用紙への使用、ミスによる損紙の削減を行っていきます。売上高の減少により評価は×です。

3) 水道水使用量

減少することができました。引き続き朝礼などで節水を呼びかけ意識の向上に努めます。売上高の減少により評価は×です。

4. 環境への取り組み状況

当社は会社全体で自然環境への配慮、特に二酸化炭素濃度を削減、廃棄物排出量、水資源の削減に努め現在の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済システムを改め、最適生産・最適消費・最小廃棄の社会である循環型社会に変えていくことを宣言します。

環境保全の取り組み自己チェック結果

EA21 の環境保全の取り組みの自己チェックに準じて環境への取り組みについて自己チェックした結果は次のとおりです。

施策	チェック項目数	チェック結果の点数	満点の場合の点数	施策実施度合い(%)
1. 事業活動動へのインプットに関する項目				
1) 省エネルギー				
① エネルギーの効率的利用及び日常的なエネルギーの節約	11	25	28	89.3%
② 設備機器等の適正管理	5	9	12	75%
③ 設備の入替・更新時及び施設の改修にあたっての配慮	3	6	8	75%
2) 省資源	5	12	14	85.7%
3) 水の効率的利用及び日常的な節水	5	15	18	83.3%
4) 化学物質使用量の抑制及び管理	4	10	12	83.3%
小計	33	77	92	83.7%
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目				
2) 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理				
① 廃棄物の発生そのものを抑える取組	4	8	10	80%
② リサイクルの促進	2	8	8	100%
③ 産業廃棄物等の適正処理	1	6	6	100%
4) その他生活環境に係る保全の取組等	1	4	4	100%
小計	8	26	28	92.9%
3. 製品及びサービスに関する項目				
1) グリーン購入（環境に配慮した物品等の購入、使用等）	5	6	10	60%
2) 製品及びサービスにおける環境配慮				
② 出荷、輸送等における取組	4	8	10	80%
③ 製品の回収・リサイクル	1	4	4	100%
小計	11	18	24	75%
4. その他				
2) 環境コミュニケーション及び社会貢献				
① 環境コミュニケーション	1	1	2	50%
3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体にあたっての環境配慮				
② 既存建築物が及ぼす環境への影響を予防低減するための方策	1	1	2	50%
小計	2	2	4	50%
合計	54	123	148	83.1%

5. 主な環境活動計画の内容

会社は次の方法により、以下の使用量の削減に取り組む。

1) 二酸化炭素の削減

(1) 電力の抑制

- 室内温度は、夏は事務系28度以上、冬は20度以下、工場は年間で省エネに努める。
- 休憩時間は消灯し、パソコンも極力省電力に努める。
- 仕事でも長時間に亘る離席時は極力消灯する。
- 省エネタイプの機械設備を導入する。
- エアコンフィルターの掃除の徹底（毎週清掃状況をチェックする。）
- 印刷機等は原則として昼休みは電源を切る。
- デマンド監視装置を設置し、使用電力量をチェックする。

(2) 自動車燃料の効率化

- 社用車の効率的な運転を推進する。
- ドライバーの車両整備管理。
- 自社車両全てにおいて、車両ごとの走行距離、燃料使用量、燃費を管理者に書面で報告し管理者はこれを公表する。
- アイドリング防止の徹底とアクセルむらのない運転をする。

2) 廃棄物の削減

- 各職場に分別（可燃ごみ、カン、ペットボトル、不燃ごみ等）のゴミ入れをおき回収業者に渡し、リサイクルできるものはリサイクルする。
- CTP印刷版出力機の導入によるデジタル化により中間材を削減する。
- 使用済みインキ 委託業者が収集し、焼却処分する。
- 廃液（現像、定着液） 委託業者が収集し、中和処分する。
- 印刷版（アルミ）や断裁紙くずは、委託業者が回収しリサイクルする。
- インキの空き缶やインキ付ウエス・ペール缶・プラスチック・ビニール類などは専門業者が回収し、リサイクルできるものはリサイクルする。
- 当社の印刷工程で使用している有機溶剤には、刷版製作時の自動現像機の廃アルカリがあります。この廃液は屋外に設置してあるタンクに貯蔵し専門業者が回収します。その他、工場補助材としての洗浄剤等も専門業者が回収します。

3) 紙使用量（コピー紙等）の削減と有効利用

- コピー紙、出力紙は各職場に枚数をノートに記入し無駄を無くすようにする。
- 縮小コピー、両面コピーの採用、損紙コピーの裏再利用
- 印刷紙は従前からの再生紙の購入を積極的に進めている。
- 印刷紙の白紙をメモ紙、コピー紙として再利用する。
- ヤレ紙の削減に全社をあげて取り組む。とくにミスによる大量損紙をなくす。
- ヤレ紙は裏面の再利用、又はリサイクルする。
- 書類の電子化（電子媒体化、メール等）により紙資源を削減する。
- 毎月の使用枚数を公表する。

4) 水使用量の削減

- こまめに節水する。
- トイレ等の水量を最小にする。
- 工場で使用する（刷版・印刷）水は循環器を使用している。
- 洗車はできるだけ節水に努める。

5) 総物質投入量グリーン購入の推進

- グリーン購入規定に沿ったグリーン購入を推進する。
- 再生紙使用は営業マンを通じて促進しています。
- 環境にやさしい植物性インキ（ベジタブルインキ）を使用する。
- 環境に配慮した機種を選定や湿し水の循環システムを採用し、IPAの使用を全廃した。
- 事務用品、文具、作業服は出来るだけグリーン購入を行う。

6) 化学物質の削減

- オンデマンド印刷への仕事の振り分け。
- 濾過装置のフィルターの交換周期の短縮を図り効率化する。
- 洗浄液の使用量を削減する。
- ロス率を少なくする。

7) その他

(1) 地域環境整備への協力

- 社屋内外において、具体的な分担を決めて定期的に整理、整頓、清掃を推進する。
(毎週月曜日に朝全員整理、整頓、清掃、清潔、しつけの実施)
- 全ての廃棄物・廃液は回収業者に依頼し、再生物・産廃物に種分けして、工場から地域環境を汚染する物質を排出させない恒久対策を取る。

(2) 環境保全意識の向上

- 当社は環境問題には以前から大変関心があり、再生紙・植物性インキの使用、資源ゴミの分別を行ってきましたが、今後はCO₂削減と廃棄物を出来るだけ出さない、ムダを省くことを徹底して押し進める。
- 環境教育はあらゆる機会を捉えて日常的に行う。外部研修会参加。
平成26年度の最重要実行項目の中に「環境に配慮した行動をしよう」を掲げている。
全体会議 年度初めの経営方針発表 新入社員研修時 環境委員会・1回/3ヶ月開催
- 火災、地震等の緊急事態発生時に想定される被害に対しては社内自主防災組織をもって対応する。

(3) その他

- 関連する法規に則り適正な処理を推進する。

6. 主な環境活動計画の内容と評価

		評価	原因	対策
電力の抑制	室内温度は、夏は事務系28度以上、冬は20度以下、工場は年間で省エネに努める	△	周知が不十分でした	月ごとのテーマの中で徹底していきます
	休憩時間は消灯し、パソコンも極力省電力に努める。	△	繁忙期などは休憩時間も作業があり、あまり実行できませんでした	周知を徹底し省電力に努めます
	仕事でも長時間に亘る離席時は極力消灯する。	○		周知を徹底し省電力に努めます
	省エネタイプの機械設備を導入する。		設備の新設・更新の計画はありませんでした	今後省エネタイプの設備導入を随時検討
	エアコンフィルターの掃除の徹底(毎週清掃状況をチェックする。)	△	清掃状況のチェックが不十分でした	定期的な清掃を徹底していきます
	印刷機等は原則として昼休みは電源を切る。		繁忙期などは休憩時間も作業があり、あまり実行できませんでした	作業効率を考え、工場内の電灯に限りたいたいと思います
責任者 各部門管理者				
自動車燃料の効率化	社用車の効率的な運転を推進する。	○		今後も実施していきます
	ドライバーの車両整備管理。	○		今後も実施していきます
	自社車両全てにおいて、車両ごとの走行距離、燃料使用量、燃費を管理者に書面で報告し管理者はこれを公表する。	○		今後も実施していきます
	アイドリング防止の徹底とアクセルむらのない運転をする。	○	アイドリングストップ車1台入替	今後も検討
責任者 車両管理河合				
廃棄物の削減	各職場に分別(可燃ごみ、カン、ペットボトル、不燃ごみ等)のゴミ入れをおき回収業者に渡し、リサイクルできるものはリサイクルする。	○		廃棄物の分別、リサイクルを徹底していきます。化学物質の適正廃棄と保管管理を徹底していきます
	CTP印刷版出力機の導入によるデジタル化により中間材を削減する。	○		
	使用済みインキは委託業者が収集し、焼却処分する。	○		
	廃液(現像、定着液)は委託業者が収集し、中和処分する。	○		
	印刷版(アルミ)や断裁紙くずは、委託業者が回収しリサイクルする。	○		
	インキの空き缶やインキ付ウエス・ペール缶・プラスチック・ビニール類などは専門業者が回収し、リサイクルできるものはリサイクルする。	○		
	当社の印刷工程で使用している有機溶剤は製版現像廃液の廃アルカリがあります。この廃液は屋外に設置してあるタンクに貯蔵し専門業者が回収します。その他、工場補助材としての洗浄剤等も専門業者が回収します。	○		
責任者 管理責任者中井				
紙使用量 (コピー紙等)の削減と有効利用	コピー紙、出力紙は各職場に枚数をノートに記入し無駄を無くすようにする。	△	使用量は確認していますが、枚数の記入がありません	実施方法を検討します
	縮小コピー、両面コピーの採用、損紙コピーの裏再利用	○		今後も実施していきます
	印刷紙は従前からの再生紙の購入を積極的に進めている。	△	品質面から使用は21台でした	使用率を高めるように促進していきます
	印刷紙の白紙をメモ紙、コピー紙として再利用する。	○		今後も継続していきます
	ヤレ紙の削減に全社をあげて取り組む。ミスによる大量損紙をなくす。	×	大量損紙の発生	報告・連絡の徹底
	ヤレ紙は裏面の再利用又はリサイクルする。	○		今後も実施していきます
	書類の電子化(電子媒体化、メール等)により紙資源を削減する。	△	周知が不十分でした	月ごとのテーマの中で徹底していきます

責任者 管理責任者中井	毎月の使用枚数を公表する。	△	記録はしていますが、公表がされていませんでした	公表していきます	
水使用量の削減	こまめに節水する。	△	周知が不十分でした	月ごとのテーマの中で徹底していきます	
	トイレ等の水量を最小にする。	○		必要以上に使用しないように周知していきます	
	工場で使用する(刷版・印刷)水は循環器を使用している。	○			
責任者 管理責任者中井	洗車はできるだけ節水に努める。	○		今後も継続していきます	
総物質投入量 グリーン購入の推進	グリーン購入規定に沿ったグリーン購入を推進する。	△	印刷用紙以外で、周知が不十分でした	月ごとのテーマの中で徹底していきます	
	再生紙使用は営業マンを通じて促進しています。	△	品質面から使用は21台でした	使用率を高めるように促進していきます	
	環境にやさしい植物性インキ(ベジタブルインキ)を使用する。	○		今後も継続していきます	
	環境に配慮した機種種の選定や湿し水の循環システムを採用しIPA濃度を5%未満に管理する。	○	IPAの代替品を使用しています	今後も継続していきます	
	事務用品、文具、作業服は出来るだけグリーン購入を行う。	△	グリーン購入は11品目でした	月ごとのテーマの中で徹底していきます	
	湿し水にかんしてもノンアルコール化が可能な製品を選択する。	○	IPAの代替品を使用しています	今後も継続していきます	
その他	地域環境整備への協力	社屋内外において、具体的な分担を決めて定期的に整理、整頓、清掃を推進する。 (毎週月曜日に朝全員整理、整頓、清掃、清潔、しつけの実施)	○		今後も実施していきます
		全ての廃棄物・廃液は回収業者に依頼し、再生物・産廃物に種分けして、工場から地域環境を汚染する物質を排出させない恒久対策を取る。	○		
	環境保全意識の向上	当社は環境問題には以前から大変関心があり、再生紙、植物性インキ、資源ゴミの分別を行ってきましたが、今後はCO ₂ 削減と廃棄物を出来るだけ出さない、ムダを省くことを徹底して押し進める。	△		二酸化炭素の排出量を削減していきます
		環境教育はあらゆる機会を捉えて日常的に行う。外部研修会参加。	△	外部研修会等実施できませんでした	外部研修会等、積極的に参加していきます
		平成20年度の最重要実行項目の中に「環境に配慮した行動をしよう」を掲げている。	○		
		全体会議 年度初めの経営方針発表 新入社員研修時 環境委員会・1回/3ヶ月開催	○		今後も実施していきます
		火災、地震等の緊急事態発生時に想定される被害に対しては社内自主防災組織をもって対応する。	○		本年度以降も実施していきます
責任者 管理責任者中井	その他 関連する法規に則り適正な処理を推進する。	○			

7. 次年度の取り組み内容

- **電気使用量の削減**
 - 空調温度の適正化（(冷房 28℃・暖房 20℃）
 - エアコンフィルターの清掃
 - 休憩時間、長時間離席時の消灯
- **自動車燃料の削減**
 - 効率的なルートで配送
 - 急発進・急加速や空ぶかしの排除
 - タイヤの空気圧を定期的を確認
 - 適正な車両整備
- **一般廃棄物の削減**
 - 分別の徹底
 - 品質劣化等による不良在庫を減らす
 - プリンター等リサイクルし易い素材の使用
 - 包装資材の削減
- **産業廃棄物の削減**
 - 素材別分別の徹底
 - 作業ミスによる廃棄量の削減
 - 使い捨て製品の使用や購入の抑制
- **水資源使用量の削減**
 - 節水シールの貼り付け
 - 社用車の洗車を最小限に留める
 - 水道管からの漏水点検
- **化学物質の削減**
 - 洗浄液の使用量の削減
 - 印刷ロス率を少なくする
 - 濾過装置のフィルターの点検・交換時期の短縮
- **グリーン購入の推進**
 - 有害性の少ない素材の購入
 - 省エネ性の高い電気製品の購入
 - 燃費の良い自動車の採用
 - 事務用品グリーン購入比率向上
 - 再生紙の使用頻度を高める
- **紙使用量の削減**
 - ミス撲滅の徹底、コミュニケーションを図る。

8. まとめ

デマンド電力監視装置の設置をし1年たちました。成果は表れていると思います。来年度も電気の使用量の削減を期待します。ムダの改善と環境行動を見直し推進すると同時に、繁忙期の電力や夏場の水使用量など統計的に増加傾向にある部分をテーマとして実行していきます。

9. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

法律名	該当環境側面	要求事項	届出	業者契約	遵守の確認	違反・訴訟・指摘苦情
環境基本法	公害防止 廃棄物への対応				○	○
廃棄物処理法	残ったインキ缶等	適正処理の義務		○	○	○
騒音規制法	印刷機騒音	規則の遵守	○		○	○
振動規制法	印刷機振動	規則の遵守	○		○	○
悪臭防止法	有機溶剤	適用除外			○	○
PRTR 法	印刷工程・製版工程	化学物質の排出量と移動量の把握 安全シートの管理			○	○
大気汚染防止法	自動車排気ガス	設置事前・変更届出 公害防止管理者の選任と届出 指定物質排出の抑制 排出基準の遵守 燃料使用基準			○	○
下水道法	下水の管理				○	○
水質汚濁防止法	現像液の回収	適正に処理		○	○	○
容器包装リサイクル法	包装資材等	適正処理の義務			○	○
グリーン購入法	資材調達	出来る限りの環境物品を調達			○	
安全衛生法		有機則・作業主任者			○	
消防法		消火設備			○	

当社に関する法規に対して過去3年間の違反、訴訟、および関係機関や近隣住民などの指摘や苦情は1件もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

前年同期同様に環境計画に基づき、CO₂、廃棄物、水資源等、各削減や再資源化を実施し、環境目標の達成に取り組んできました。全体的にみると仕事量の減少もあり数値的には、改善できているように見えます。ミスによる大量損紙の発生やムダの改善を実行し、作業を通してエコに対する意識の向上とコスト削減を強化していきます。また、デマンド監視装置の設置による電気使用量の削減にも成果が現れています。

環境問題は今後の経済活動には必須の条件となりますので、今後も維持、継続に努め、従業員ひとりひとりが環境やその問題に関する知識・理解・態度・関心を深め、自然環境、社会環境など人間にかかわる環境に対して責任ある行動を心掛けていきます。

《二酸化炭素排出量削減》について

まだ努力できる身近なところを見直しし（節電方法など）目標を立てる。また、新たな取り組みも検討する。

《廃棄物削減》について

弊社は生産量による変動を避けられないため、リサイクルを検討する。

《水使用量削減》について

現状維持または、もう少し努力する目標を立てる。

《グリーン事務用品調達の推進》

現状維持

見直し項目		変更の必要性	①の場合の指示事項等
1	環境方針	有・無	
2	環境目標	有・無	
3	環境活動計画	有・無	
4	環境に関する組織	有・無	
5	その他のシステム要素	有・無	